

第2回 伊丹市環境基本計画（第3次）の策定に係るいたみ環境市民会議

会議録（要旨）

日時：令和2年6月25日（木） 午後2時～4時

会場：伊丹市立総合教育センター 2階講座室

出席委員：森委員・新宅委員・小田委員・永田委員（住友電気工業）・芝田委員（三菱電機）

1. 開会

(1) 事務局あいさつ

(2) 資料の確認

次第

資料① 委員名簿

資料④-2 資源が循環する環境に配慮したまち

資料④-3 自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち

2. 事務局より説明及び議論

(1) 前回のテーマ、基本目標「気候変動に対応したまち」で掲載している市民・事業者に期待する取組について

【質疑】

(委員) 市民・事業者に期待される取組欄に挙げられている取組の表現方法について、「○します」など言い切りの形になっているが、これは我々事業者や市民が宣言するということか。事業者や市民の皆さんに宣言してくれということなのか。

→ (事務局) 期待される取組ということで記載している。

→ (委員) 期待ということは、できなくても構わないのか。雨水貯留槽の設置など厳しいものもある。

→ (事務局) 期待されるということで、強制ではない。

(委員) 「気候変動」という言葉、前回説明もあり、「地球温暖化対策」の続きであることはわかったが、市民の方々がどのくらいこの言葉について知っているのかが気になる。

→ (事務局) 行政では、「気候変動」という言葉が使用されている。ただ、一般の市民の方々には「地球温暖化」という言葉の方が分かりやすいと思う。世界的には、人為的な変化ということで「気候変動」という言葉が使用されており、本来ならば、生物多様性と同様に「気候変動」という言葉の認知度を高めていく必要がある。

- (委員) 「気候変動」に対応していくということであれば、COOL CHOICE などもそうだが、もう少し市民への PR がうまくいけばいいのにといい気がする。皆にわかるような形でやっていただきたい。
- (委員) 2次計画から3次計画に変わる際の文言についても、2次計画では「地球温暖化」という言葉を使用していて、3次計画では「気候変動」という言葉になっている。その辺のつながりも分かれば、皆も分かりやすいと思う。

(2) 基本目標「資源が循環する環境に配慮したまち」について

【資料④-2に基づき、事務局より説明】

【質疑】

《ごみ減量の工夫等について》

- (委員) 事業ごみについて、数年前から中国が廃プラ関係を引き取ってくれなくなり、ある程度は有価物となっていたが、今は全て廃棄物となっている。有価物の業者も廃プラの中に少し鉄が混ざっていれば引き取ってくれていた。今は全て廃プラとして廃棄するため、倍くらいの量になっている。ごみの減量を言われているが、減っていないのが現状である。
- (事務局) 市では、現在古着の回収を止めている。古着は東南アジア等に送っていたが、コロナの影響で船便が出ないため、置いておく場所がなく、古着の引取りができず、困っている。
- (委員) 廃棄物処理業者も厳しくなっていて、違うものが混ざっていると引き取ってくれない。また、再利用など次の工程に進めないものは引き取ってくれない業者が増えており、専門の業者を探すのに苦労している。
- (委員) 適正分別が必要であるということだが、家庭ごみの場合、分別できている人とそうでない人が見られる。分別ができていなくても持って行ってくれるが、これを厳しくした方がいいのか、このままでいいのか、どう啓発をしていくのかがこれからの課題だと思う。
- (委員) 個人的には12種類くらいに分別している。分別して置いておくのにもレジ袋が必要だと思っている。適正に分別して、決められたとおりに出すということを徹底することで、町もきれいになると思う。
- (委員) ここに書かれている取組はほぼできているが、「堆肥化容器の利用」は一般の家庭では難しいのではないかと思う。
- (委員) 地域の人で、分別カレンダーや分別ガイドブックを持っていないという方も多い。自治会に入っていない人までは行き届いていないようである。自治会の作れないところもある。自治会単位では対応できないので、できれば広報などに入れて、皆にいきわたるようにしてもらえると良いと思う。

→（事務局）分別ガイドブックは、今は全戸配布をしていない。生活環境課に連絡いただければ、準備はしている。また、ホームページ、スマートフォンのアプリでも確認できる。

（委員）レアメタルの回収とあるが、先日、蛍光灯や小さな家電、電池など色々なものを市でも回収してくれるということを初めて知った。身近に回収ボックスがあることを知っていれば、市民は活用するのではないかな。もっとPRすべきだと思う。

（委員）プラスチックごみについて、近所の方との話の中で、最近、インターネットなどで、「レジ袋はダメだといわれているが、日本は高温で燃やすから有害な排ガスは出にくく、レジ袋がダメだというのは環境的にどうなのか」という世論があるというのを聞くが、本当のところはどうなのだろうという意見があった。また、伊丹ではプラスチックの資源回収をしているが、マークのついているものは回収されるが、それ以外のプラスチックについては、可燃に入れるのか、不燃に入れるのか、そのあたりが分かりにくくいつも迷うという意見もよく聞く。実は、プラスチックの資源化回収で回収しているけど高温で燃やしているだけじゃないかと誤解をしている方もいる。資源化で回収しているのであれば、具体的にどういうものに再利用しているのかなどわかりやすくPRしてもらえたら、市民の方も資源物の回収にもっと協力しようとするのではないかな。

→（事務局）紙類だと、新聞紙は新聞紙にそのまま再生される。その他の紙類も、ティッシュや段ボールに再生され、紙類に関しては適正に分別すると、紙類に再生されている。プラスチックに関しては、化学が進歩していて何とか違うものに再生しようとしている。それがプラスチックのリサイクルで、ペットボトルなどはチップ化して繊維に再生されている。プラのマークのあるものも、きれいにすると違うプラスチックに生まれ変わる可能性がある。汚れたものについては、今の焼却炉は高温で燃やすため、有害なガスは発生しないようになっており、石油製品は燃料でもあるので、しっかり燃やした方がよい。サーマルリサイクル、熱回収ということで熱としてリサイクルしているともいえる。今一番問題なのは、不法投棄である。ポイ捨てされたペットボトル等のプラスチック類が貯水池や水路などに溜まって、その処理が問題となっている。

（委員）ごみの問題は生活に直結しているため、自分事としてとらえないといけないと痛感する。伊丹はイベントなども多いので、イベントの中でごみの減量をPRできれば、市民が自分事としてとらえる良い機会になるのではないかな。屋台村でのマイ箸、マイボトルの普及活動や飲食店での食べ残し対策としてドギーバッグの紹介やPRなどできるのではないかなと思う。

（委員）食品ロスの削減で、フードドライブの取組も伊丹市内でもっと広げていきたいと考えている。今はイベントとしてやっているが、自治会や職場、学校でのフー

ドドライブができれば、身近なところで活動できるのではないかと考えている。
(委員) 事業所では、食堂で残飯を減らす等の取り組みはしているが、余った食材を提供するというところまでは進んでいない。食中毒も怖い。

《フリマアプリやレンタル等の利用について》

(事務局) 最近増えている、フリマアプリや自動車・おもちゃ等のレンタルについて、利用されたことはあるか。また、利用にあたっての課題等はあるか。

(委員) 子どもの物、特に小さいころに必要な物は使いまわしをしていたが、大人のもののはなかなか難しい。日本にはそういう習慣がないのではないか。

(委員) ごみは家に置きたくない。どのように的確に処理できるかということを行政の方でしっかり PR していけるよう考えてもらえるとよい。

(委員) 『ジモティー』を利用したことがあるが、全て引き取ってもらえた。そういう場がもっと浸透していけば良いと思う。

《ごみの減量について》

(事務局) 前回、コロナの影響で、家庭ごみがどれくらい増えたのか興味があるというお話があった。報告になるが、家庭系の燃やすごみは4月、5月では昨年より10t/日多くなっている。事業系一般ごみは、飲食店などの休業の影響もあったのか減少したとのことであった。

(委員) 事業系ごみが減少しているとのことであったが、うちの事業所では増加している。ごみ処理費用の値上がりもあり、社内教育の中で分別等教育していきたいと思っている。

→ (事務局) その中で、事業者さんの方でごみを減らす工夫について、ここに書かれている以外で具体的に何かされていることはあるか。

→ (委員) いろいろな部署から一か所にごみが集まる仕組みになっており、担当者をおいて、それぞれのごみを確認し、分別が悪ければ全て返すなど、指導・教育を行い、ごみを減らす工夫をしている。安全・環境教育の場でもごみの分別の教育をしている。

→ (委員) ごみの量は事業の状況などにも左右される。今年は少ないと思う。どこの事業所でも同じだと思うが、ごみの処理量をいかに減らすかが事業に直結してくるので、どこの事業所でも苦労していると思う。そこに対してうまく指導であるとか、どういう工夫をしているかなどの情報交換ができれば、また違った、それぞれの事業所なりの取組ができるのではないかとと思う。

《プラスチックごみの削減について》

- (事務局) 廃プラスチックの削減、プラスチック・スマートの話で、マイボトルやマイバッグを利用するうえでの障害となることや、実践されている利用方法などあれば聞かせてほしい。
- (委員) マイバッグ（スーパーでの買い物に使用するバッグ）の中に食品トレーや紙パックなど回収しているものを入れておき、それを買い物の際にそのままスーパーに持って行き、回収ボックスに分別し、買った物をまた入れて帰ってくる。自然な流れでできていると思っている。
- (委員) マイボトルを持っていくとそこに飲料を入れてくれるカフェもある。
- (委員) 回収ボックスはスーパーによって回収している項目が違っている場合があり、少し困ることがある。
- (委員) 買い物の際には小さめのエコバッグを使用し、それ以上買わないように心掛けている。余計なものを買わなくなり、食品ロスの防止にもなると思う。

(3) 基本目標「自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち」について

【資料④-3に基づき、事務局より説明】

【質疑】

《街路樹について》

- (委員) 街路樹が切られすぎている気がする。葉がなくなり、CO₂の吸収量も減っているのではないかと気になる。せっかくある街路樹を活かすことはできないか。
- (事務局) 県道のイチョウはきれいだが、落ち葉が水路を詰まらせる、歩行者が滑るなどの問題があり、間引きされている。維持管理などの問題もある。これからのまちづくりでは考えていかなければならない。
- (事務局) 街路樹については、道路保全課の方で街路樹の管理計画を策定中であり、また皆さんに意見を聞いていくことになると思う。昔はどちらかというとかやきやクスノキなど大きくなる木が植えられ、おそらく当時は、大きくなったら植え替えるつもりだったのだと思うが、今は街路樹管理の予算も限られており、特に大きな木を毎年剪定するというのは難しい状態になっている。落ち葉についても汚いと感じる方もおられ、美観、水路への影響など様々な街路樹の問題がある。これからは少し見方を変え、成長を抑えながら街の景観を維持していく、道路と街路樹のバランスを考え、中低木に切り替えるなどの方針も立てている。新たな視点で街路樹の整備・管理をしていくということで伊丹市でも考えている。
- (事務局) 道路が狭く、大きな街路樹の場合、街路樹同士が重ならないように間引く場合もあるが、住宅等が隣接しているなどの理由から剪定せざるを得ない

いところもある。

- (委員) 自転車道で、低木がはみ出してきて危険だと思ふことがあるが、何とかならないか。
- (事務局) 剪定はしているが、時期がずれると伸びてしまって道路にはみ出してしまふことがある。アベリアという樹種だと思ふが、樹種も含めて検討していこうとしている。

《みどりの維持について》

- (委員) 伊丹市は都市の規模の割に緑が多いとよく言われる。
- (事務局) みどりの取組もだいぶ成熟してきていて、これからはどうやって維持していくかが課題であると考えている。事業者さんにもこれらの取組に参加していただいているが、市民・事業者・行政で長期的・安定的に運営していくことがこれからの課題であると思う。皆さんの中で何か課題に感じていることや、世代交代が一番の問題であると思うが、リレー方式にこういうことができればいいのにと思ふことなどあれば聞かせてほしい。
- (委員) みどりや生物多様性の話は、個人的には最も重要なことで、SDGs でも一番底辺にあり、何でもここからスタートすることではないかと考えているが、事業所的には利益を生まなくて、事業になっても業績が落ちてくると最初に減らされるところであり、維持管理、メンテナンスがこれから一番大事だと思う。
- (委員) 事業所は閉鎖された空間であり、それに対して我々がどう取り組んでいけるかということをしっかり考えないといけないと思う。公園などでは様々な人が入ってくるため、せつかく在来種を植えていても、きれいな外来種を植えられる方がいたり、堤防のオオキンケイギクもきれいだが、かなり増えてきて問題だと感じているのだが、特定外来種に指定されているものであり、そういう維持管理活動もこれからの課題だと思う。アカミミガメを昆虫館のところに放そうとした親子連れもいたが、そういう環境教育もこれからどのように行っていくのか、お金のかかることでもあるので課題になってくると思う。
- (委員) ボランティア活動についても、何曜日に、どの時間帯にするのか、事業者として働き方をどのように捉えるかということもこれからの課題の一つだと考えている。
- (委員) 工場では、市の条例で緑地を 15%以上という決まりがあり、15.2%まで増やしている。今後も継続して増やしていきたいと考えている。
- (委員) 2008 年から森部会に参加しており、今後も継続して参加していくが、今、森部会、川部会、池部会とあり、それ以外に今後何か案などあるのか。
- (事務局) 一時は鳥をしたいという方がいたが、今は市民の方が野鳥の調査をしている。これらの鳥の確認で目標をクリアしているが、他の生物種は少しず

つ減少しているというのが現状であり、そのためにいろいろな活動を通して環境を良くしていくため、各部会で活動をしていただいている。もともと森・川・池というのは触るグラウンドレベルで分かれているだけなので、そこから分化して、こういう取組がしたいということがあれば、それは実現できると思う。個々に行政が具体的に何かというのはない。

→（事務局）企業のトップ、本社では生物多様性やSDGsの取組について非常に関心が高く、企業としてのアピールはどこの会社でもされているが、一セクション、特に生産部門になると、コストを抑えて収益を上げなければならないところであり、そこは企業の中で変わっていくのだろうと思っている。身近な環境が変わってきているということを感じてもらうことで、生物多様性の保全につながると思う。日本では自然環境保護と生物多様性がうまくリンクしている。まず身近な環境に興味を持ってもらえば、周りを見る目が変わるのではないかとと思っている。

（委員）生物多様性副読本をみて、昆陽池にこれだけの生物がいるということに驚いた。ホテルが、人工的ではあるが出てきているというのはいずれいい。

（委員）子どもたちは環境教育として、小学校から猪名川で虫取りなどを行っている。こんなに良い環境があることは、本当に素晴らしいと思っている。また、猪名川の清掃に子どもを連れて行くと、ごみの状況に衝撃を受けて帰ってくる。子どもたちに良い環境があるということは学校の環境教育等で見せてもらっているが、裏側というか、維持するのに、このごみを減らすにはどうしていけばいいのかを考える機会をもっと増やせば、子どもたちもこれからどうすべきか考えるきっかけになるのではないかと。また、清掃に行くと、地域のお年寄り子どもたちがつながりをもてて良いと思う。

3. 閉会

今後の予定の案内

第3回 7月上旬～中旬で調整中

以上